

令和6年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

課題名②さつま地域の特色を活かした園芸産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4			着色改善に関する課題は以前からあったため、非常に助かった。	着色対策技術の指導に今後も取り組みます。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1			
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	1		・よい結果がでており、方向は間違いない。 ・定期的な現地検討会は栽培上大変助かっている。	・農開センターと常に連携し、なし、ぶどうの栽培技術確立に取り組みます。 ・定期的な講習会等を継続し、技術情報等を提供していきます。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4				
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1		新しい剤により品質向上に繋がった。 今後もなしの新品種の調査を継続してほしい。	なし新品種の特性を把握し、栽培技術の確立に取り組みます。
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	1			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	1			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

課題名②さつま地域の特色を活かした園芸産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5				
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5				
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	2		各組織のより一層の情報共有と連携を図りたい。	園芸振興協議会川薩支部と常に連携し、情報の共有化を図ります。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5				
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5				
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	1		・高温対策への対応をすすめてほしい。 ・ぶどう、なしの新品種の特産品化に期待している。 ・労働力の軽減に繋がる栽培技術向上を進めてほしい。	・町内の他品目も含めて、気候変動に対応した栽培技術の普及に取り組みます。 ・ナシのジョイント栽培やブドウの短梢剪定など、新規に取り組みやすい栽培技術の普及に取り組んでいきます。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1			

さつま地域の特色を生かした 園芸产地の育成（果樹） ～気候変動に対応した栽培技術の普及～



北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

普及活動外部評価会

普及の対象

さつま町ぶどう振興会：さつま町 8 戸

さつま町なし振興会：さつま町 8 戸

うち

ぶどう、なしを栽培している会員：4 戸

＜普及指導計画の活動事項＞

環境に配慮・適応した栽培技術の推進

普及活動外部評価会

発表内容

- 普及の対象
- 課題を取り上げた理由
- 活動の内容及び成果
 - ・着色向上技術実証ほの設置、調査（ブドウ）
 - ・定期的な講習会等での部会員への支援（ブドウ）
 - ・新たな品種の検討、導入（ブドウ、ナシ）
 - ・新たな施肥体系の普及（ナシ）
- 成果（まとめ）
- 今後の課題

普及活動外部評価会

課題を取り上げた理由

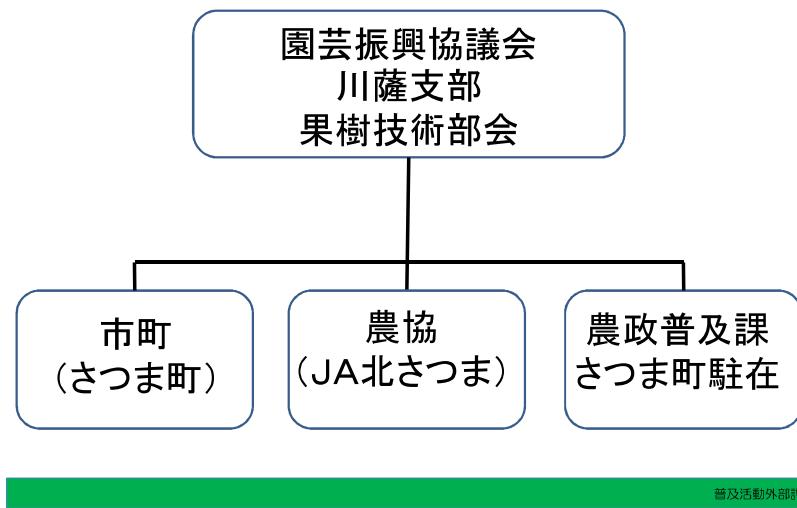
- ・鹿児島県の年平均気温は上昇しており、今後も上昇が続くと予想されている。
- ・ブドウは、近年の収穫期の高温等により、着色条件が悪くなっている。
- ・ナシは、近年の秋季の高温等により、翌年の発芽が不足する傾向にある。



着色の向上や発芽対策、新たな品種の検討、導入等を目的に、普及活動を実施

普及活動外部評価会

活動体制



活動の内容及び成果 着色向上技術実証ほの設置、調査



令和6年8月2日, F園

令和6年8月5日, O園

アブサップ液剤による着色促進効果を実証

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果 着色向上技術実証ほの設置、調査



アブサップ液剤（目的：着色促進）の処理方法、
処理時期、処理量等を指導（2ほ場）

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果 着色向上技術実証ほの設置、調査

表1 果実品質 (F園)

試験区	果房重 (g)	果皮色 色票値	糖度 (Brix)	酒石酸 (g/100ml)
処理区	302	9.7	18.6	0.43
無処理区	325	5.7	19.7	0.48

表2 果実品質 (O園)

試験区	果房重 (g)	果皮色 色票値	糖度 (Brix)	酒石酸 (g/100ml)
処理区	253	8.3	18.4	0.53
無処理区	264	6.7	18.0	0.50

F園, O園とも果実品質に影響なし
→着色促進の効果あり

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果
定期的な講習会等での部会員への支援



ブドウ栽培講習会で実証ほ内容を説明

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果
気候変動に対応できる新たな品種の検討



園振協果樹技術部会で数品種を検討 (R5, R6)

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果
定期的な講習会等での部会員への支援



県域栽培研修会で着色促進効果を確認

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果
気候変動に対応できる新たな品種の導入



果実品質、食味調査を実施
→「グロースクローネ」「マスカットノアール」
が有望

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果

気候変動に対応できる新たな品種の導入



秋冬季の気温が高いため、耐凍性が低いまま凍害
→暖冬の翌年の春にナシの発芽不良が発生

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果

気候変動に対応できる新たな品種の導入



表 「凜夏」果実品質

果房重 (g)	地色	糖度 (Brix)	pH
382	4.0	12.3	5.35

(令和6年8月13日調査)

発芽不良が極めて少ない「凜夏」の普及推進
→6件の生産者が導入

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果

新たな施肥体系の普及

ナシ施肥設計例

時期	肥料名	目標収量(t/10a)			
		1t	2t	3t	4t
春肥 3月 上旬	有機入り みかん春ライト	5袋	7袋	9袋	12袋

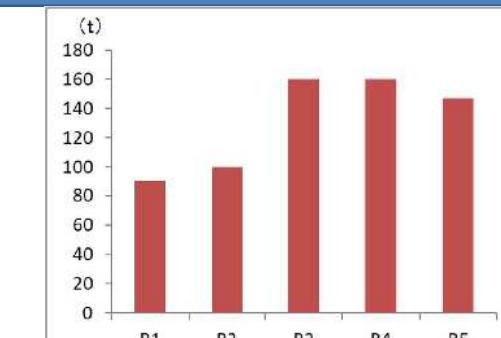
時期	肥料名	目標収量(t/10a)			
		1t	2t	3t	4t
春肥 3月 上旬	有機入り みかん春ライト	5袋	7袋	9袋	11袋
夏肥 6月 上旬	有機入り みかん春ライト	1袋	1.5袋	2袋	3袋

秋冬施肥（10～11月）から春夏施肥（3月、
6月）に施肥する体系を開発
→生産者へ周知し施肥技術が定着

普及活動外部評価会

活動の内容及び成果

新たな施肥体系の普及



さつま町なし生産量 (市町村統計)

令和2年から施肥体系を変更
→発芽率が高まり、花数が確保でき生産量安定

普及活動外部評価会

活動の成果（まとめ）

- 1 アブサップ液剤処理により、ブドウ「ピオーネ」の着色促進効果が認められた
- 2 高温に対応できるブドウの新たな品種は「グロス クローネ」、「マスカットノアール」が有望
- 3 ナシ「凜夏」の導入が進みつつある
- 4 ナシの施肥体系を春肥主体に変更し、施肥技術が定着

今後の課題

- 気候変動に対応できる栽培技術の普及
- 気候変動に対応できる新たな品種の導入



ブドウの品質向上

ナシの生産安定

- 栽培面積の維持拡大
- 生産量の増加と農家所得向上

普及活動外部評価会

生産者等の声

ブドウの生産者

- ・着色促進技術は、他の品種も使用できるようになってほしい。地球温暖化に対応した新たな品種も導入していきたい。

ナシの生産者

- ・樹齢が進み、樹勢が弱った樹が増えているので、「凜夏」等新たな品種に改植していきたい。

園振協技術部会員

- ・管内でも様々な生理障害等が発生しているので、今後は他品目の状況も含めて情報収集が重要。



ブドウ収穫祭



ナシ収穫祭

発表を終わります。

普及活動外部評価会

【発表要旨 課題2】

さつま地域の特色を生かした園芸産地の育成 ～気候変動に対応した栽培技術の普及～

1 対象

さつま町ぶどう振興会：さつま町8戸
さつま町なし振興会：さつま町8戸

2 課題を取り上げた背景・ねらい

- (1) 鹿児島県の年平均気温は上昇しており、今後も上昇が続くと予想されている。
- (2) ブドウは、近年の収穫期の高温等により、着色条件が悪くなっている。
- (3) ナシは、近年の秋季の高温等により、翌年の発芽が不足する傾向にある。
- (4) 気候変動に対応した技術や品種の検討、導入を目的に普及活動を実施した。

3 活動体制

園振協果樹技術部会（さつま町、JA北さつま、農政普及課さつま町駐在）と連携し、普及活動に取り組んだ。

4 活動の内容

- (1) ブドウの着色向上技術実証を2カ所設置し、果実品質等を調査した。
- (2) 園振協技術部会で果実品質、食味調査により気候変動に対応できるブドウの新たな品種を検討した。
- (3) 暖地でも安定生産できるナシの早生品種「凜夏」の普及を図った。
- (4) ナシの施肥時期を秋季から春季に変更し、新たな施肥体系の普及を図った。

5 活動の成果

- (1) アズサップ液剤処理により、ブドウ「ピオーネ」の着色促進の効果が認められた。処理区、無処理区とも果実品質に影響はなかった。
- (2) 高温に対応できるブドウの新たな品種は「グロスクローネ」、「マスカットノアール」が有望と考えられた。
- (3) ナシ「凜夏」を6件の生産者が新植するなど、導入が進みつつある。
- (4) ナシの栽培暦を春肥主体の施肥に変更するなど、新たな施肥技術の定着により収量安定につながりつつある。

6 残された課題

- (1) 気候変動に対応する栽培技術の普及と農家所得向上
- (2) 気候変動に対応できる新たな品種の情報収集と普及